

英語の保育教材開発について

—— コアラとウォンバットの歌を教材にして ——

横井 一之 松倉 信幸* 森 久美子

On the Invention of English Materials for Early Childhood Education

—For the Introduction of Finger Rhymes of “Koala” and “Wombat”—

Kazuyuki YOKOI, Nobuyuki MATSUKURA & Kumiko MORI

An Australian kindergarten director visited a Yochien (kindergarten) in Nagoya ten years ago. At that time she brought one music tape as a souvenir (fig. 1). The content is sixteen songs, whose titles are the names of Australian indigenous animals and birds: kangaroo, wombat, possum, emu, koala, and so on.

In this paper, we have invented the English educational materials. At first we pick out ‘koala’ and ‘wombat’ from the tape, and make music scores only using the original music songs, and finally create the finger rhymes.

The unique educational materials are designed to develop the English ability for kindergartners and primary schoolchildren.

はじめに

十数年前、名古屋の幼稚園へオーストラリアの幼稚園園長先生が訪問なされた。その土産が、歌のカセットテープ “Australian Birds & Animals”¹⁾ だった。曲名はカンガルーからツルまで全16曲、オーストラリア独特の鳥や動物の歌ばかりである。今回は、その中から特に日本の子どもたちにも人気のあるコアラとウォンバットを取り上げ、その教材開発を行った。松倉が歌詞を聞き取り²⁾、英語教育の視点から本教材の開発に取り組んだ。森は音楽を採譜し³⁾、横井が手遊びを創作し、オーストラリアの幼稚園での実演を目指した。

* 鈴鹿国際大学国際学部

1. 音楽テープについて

このテープのタイトルは“Australian Birds & Animals”といい、16のオーストラリアの動物の歌が収録されており、その内容は表1のとおりである。

表1 オーストラリアの鳥と動物

SIDE ONE			SIDE TWO		
No	Titlle	日本語訳	No	Titlle	日本語訳
1	Kangaroo	カンガルー	1	Koala	コアラ
2	Wombat	ウォンバット	2	Goanna	オオトカゲ
3	Lyre Bird	琴鳥	3	Kookaburra	笑いカワセミ
4	Echidna	ハリネズミ	4	Penguin	ペンギン
5	Cockatoo	ボタンインコ	5	Platypus	カモノハシ
6	Possum	ポッサム	6	Magpie	マグパイ（白黒鳥）
7	Emu	エミュ（ダチョウ）	7	Frill-necked Lizard	エリマキトカゲ
8	Black Swan	黒鳥	8	Brolga	オーストラリアヅル

1面（Side One）のNo.6 ポッサムはリスをちょっと大きくしたような動物で、夜行性のため夜間行動する。オーストラリアのインターネットサービス・ヤフーでテープの発行会社“Elaine Callister Comp.”を検索したところ、このポッサムの歌のみが取り上げられていた。現在、オーストラリアのABC放送局⁴⁾の幼児番組、プレスクールの中で歌われているということである。

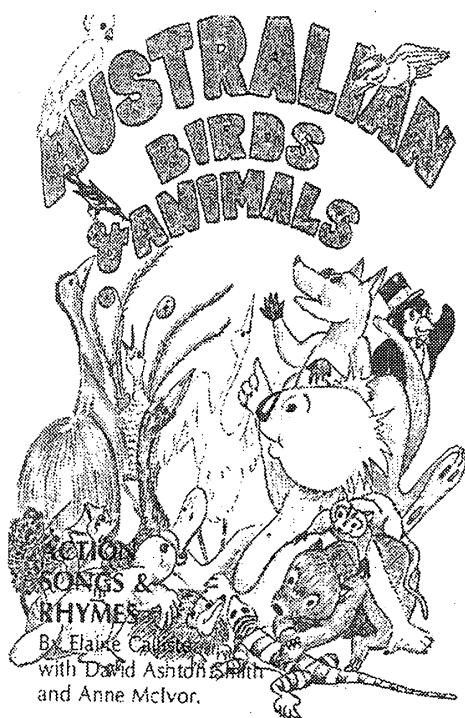


fig.1 Music Tape

また、このテープの発行者は Wycliffe Bible Translators という聖書を流布する協会であり、オーストラリアの各州に支部があるが、世界各国にも支部がある。インターネットのホームページによると、日本では東京都杉並区に事務所がある。

2. オーストラリアの動物の歌

(1) コアラ

Koala

The musical score for 'Koala' is written in 4/4 time. It includes four staves: a vocal line (歌), a triangle (トライアングル), a shaver (すず) and tambourine (タンバリン), and a piano (ピアノ) accompaniment. The key signature has one sharp (F#), and the tempo is marked with a treble clef and a 4/4 time signature.

Vocal Line (歌): The melody begins with a whole rest, followed by a half note G4, a quarter note A4, and a quarter note B4. The lyrics "Look up i-n the gun tree." are written below the notes.

Triangle (トライアングル): The part starts with a whole rest, followed by a half note G4, a quarter note A4, and a quarter note B4.

Shaver and Tambourine (すず タンバリン): The part consists of a rhythmic pattern of eighth notes and quarter notes, starting with a quarter rest followed by eighth notes G4 and A4.

Piano (ピアノ): The piano part features a complex accompaniment with many beamed eighth and sixteenth notes. A marking "8va~" is present in the first measure of the piano part.

Second System: The second system continues the musical piece. The vocal line has the lyrics "Some-one's play-ing peek-a boo. Mon-der who could that be peek-ing through the leaves at me?". The piano part continues with a similar rhythmic pattern. The section ends with the word "Fine" written above the final measure.

譜表 1-1 コアラ 1

1. Li-ttle cur-ly flu-ffy bear. Hard to see her face at all. Ra-gged ears and bea-dy eyes
 2. Li-ttle ba-by's ha-ving fun. Ri-ding on the back of mum. Chew-ing ten-der leaves with care.

o- pen wide as in surp- rise!
 Must be a ko- a- la bear!

D.S.(al Fine)

(2) ウォンバット

Wombat

歌

ウッド
ブロッサ

タンブリン

The musical score is written in 2/4 time. The vocal part (歌) is in treble clef and consists of whole rests for the first four measures, followed by a half note in the fifth measure. The woodblock part (ウッドブロッサ) is in treble clef and features a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes with triplets. The tambourine part (タンブリン) is in treble clef and consists of eighth notes with a 'z' (zonga) symbol. The piano part is in grand staff (treble and bass clefs). The right hand plays a melody with eighth and sixteenth notes, including triplets and a final phrase with the lyrics 'He's'. The left hand plays a bass line with eighth and sixteenth notes, including triplets.

譜表 2-1 ウォンバット 1

ve-ry slow fe-llow, Mr. Wom-bat. His

legs are very short and he's real-ly very fat. He

譜表 2-2 ウオンバット 2

slee- ps all the day in his hole be-neath the ground. And

when it's night, he am- bles out wa- ddles all a- round.

譜表 2-3 ウオンバット 3

2.

He- 's -round. Wom-

bat!

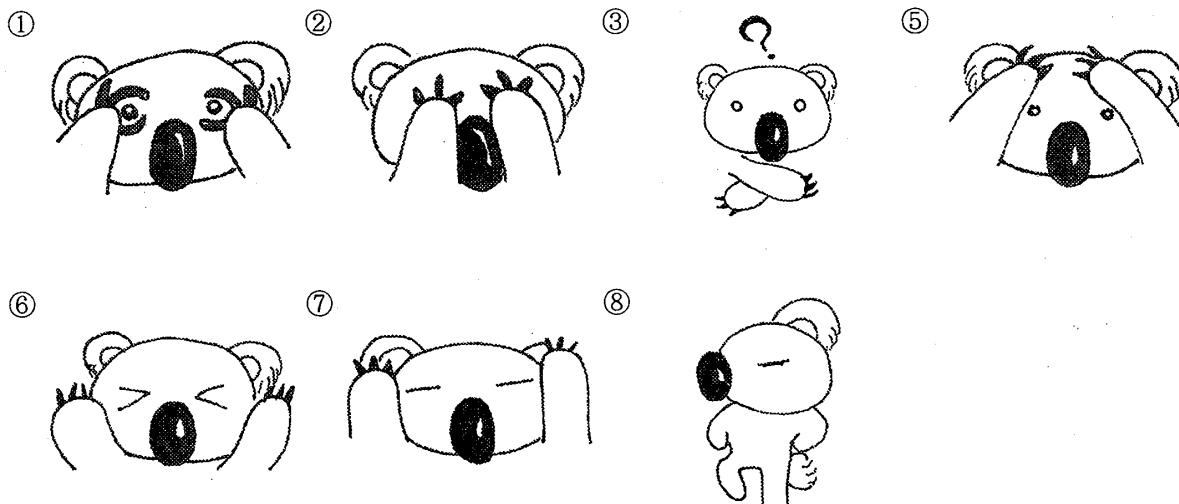
譜表 2-4 ウォンバット4

3. 手遊び

(1) コアラ Koala

1 番

- ① (手でめがねを作り、左右に) 見る仕草
- ② 目隠しをする (4 拍)
- ③ 腕を組んで、考え込む (4 拍)
- ④ ① 繰り返し
- ⑤ おつむてんてん (4 拍)
- ⑥ 両頬を両手で擦る (4 拍)
- ⑦ 頭の上に大きな耳を作り振る (4 拍)
- ⑧ 並足で左回り (4 拍)

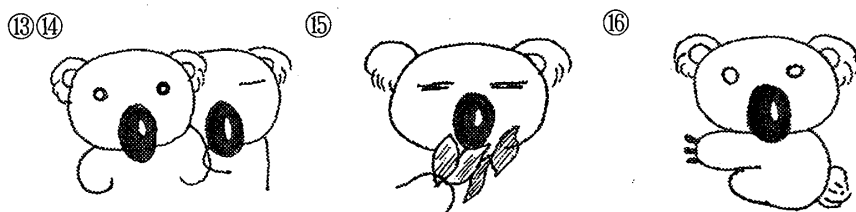


日本語訳

ユーカリを見上げてごらん
だれかがかくれんぼ
葉っぱの陰から
私を覗いているのは誰かな
けむくじゃら
顔が見えないぐらい
もつれ毛の耳と
ちっちなお目々

2 番

- ⑨～⑫は①～④の繰り返し
- ⑬⑭ (2人で) 連結機関車並足左回り
(8 拍)
- ⑮ 食べる仕草 (両手で口を大きく作り)
(4 拍)
- ⑯ (子どもをお腹の前で大きく抱く仕草
でゆっくり揺する) (4 拍)



日本語訳

赤ちゃんコアラは喜び
ママの背中に飛び乗り
おっかなびっくり
柔らかい葉っぱを頬張る
これがコアラだ

(イラスト：川島真衣)

- ⑰～⑳ は①～④の繰り返し

(2) ウォンバット Wombat

1 番

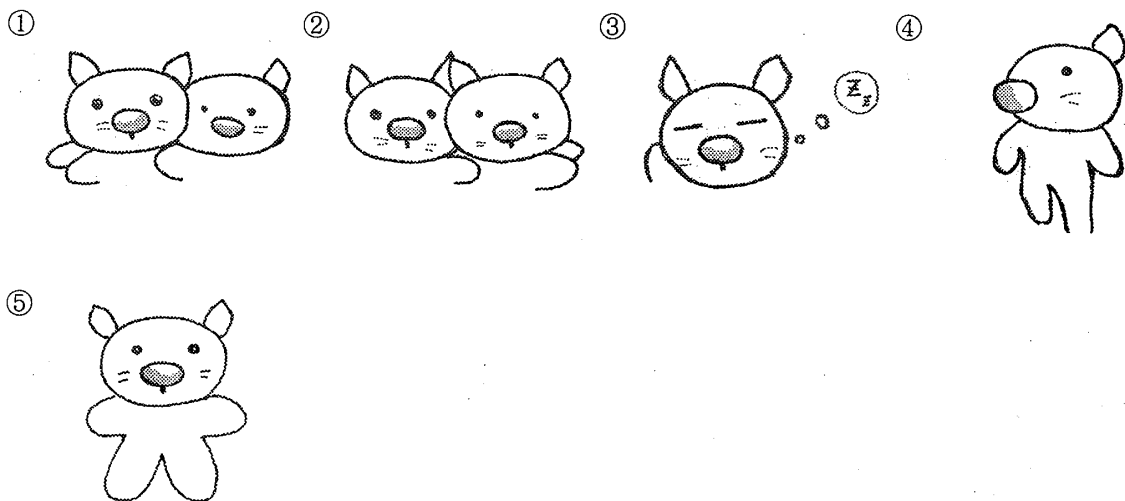
- ① (2人縦列で、後者は前者の肩に両手を載せて) 左へ8拍歩く
- ② (向きを変え) 右へ8拍歩く
- ③ 徐々に座り込む(8拍)
(ウォンバットらしく)
- ④ (起き上がり、左回りで円を描いて)
スキップ(8拍)
- ⑤ 足を広げポーズ

日本語訳

のんびりやの ウォンバット

足は短く、ずんぐりや
洞穴の中で 1日眠る

夜になると ぶらぶら
あたりを うろつき回る

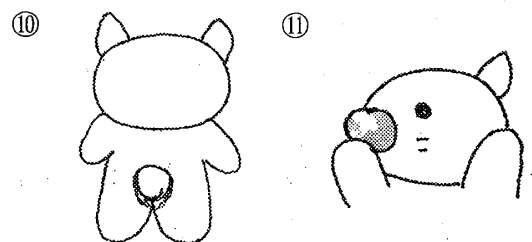


2 番

- ⑥~⑧は①~③に同じ
- ⑨ (起き上がり、左回りで円を描いて)
スキップ(8拍)
- ⑩ 足を広げ後ろ向きにポーズ
- ⑪ (ウォンバット) の歌詞で振り返る
両手に頬をつける

日本語訳

2 番の歌詞は 1 番の繰り返し



(イラスト：川島真衣)

おわりに

筆者の一人横井は1995年、1996年の7月と8月、オーストラリアでは冬であるが、クィーンズランド州ゴールドコースト市内及び近郊にある5つの幼稚園⁵⁾へ名古屋市内の保育専門学校の保育科学生を引率した。そこで見聞きした手遊びは、日本の手遊び「頭肩膝ポン」「きらきら星」「象さんとクモの巣」など、日豪共通というものであった。ある時、ある学生が、日本の幼稚園や保育所でよく耳にする「犬のおまわりさん」のパネルシアターを演じた。それを見た子どもたちの反応は、日本でのもものと異なっていた。子どもが学生の演技にあまり興味をもたなかったのである。その原因として、1つはメロディーがスピーディであり、耳慣れたものでないこと、2つめはオーストラリアではカンガルーやコアラのキャラクターの方が普通で、「犬」のおまわりさんがイメージしにくいことが考えられる。一方、イギリスの幼稚園^{6) 7)}で「しゃぼん玉とばせ」というパネルシアターを演じたことがあるが、メロディーがゆっくりで小鳥、カエル、うさぎ、たぬきなどわかりやすい動物が登場するので、日本語で演じたにもかかわらず好評であった。

以上のような理由で、これら2つの歌が日本の幼児に受け入れられるか、また創作した手遊びが現地オーストラリアの幼児に理解されるかどうか大変興味があるところである。手遊びの腕を磨いた上で、実際に演じて見せて確かめる機会を得たいと思う。

いろいろな子どもの歌がある中で、「ロンドン橋」の歌などイギリスでもアメリカでも耳にすることができる英語圏の子どもの歌がある。ここで取り上げたコアラとウォンバットの歌は、オーストラリア固有の動物であることからオーストラリア独自の歌であることがわかる。もっとも、「パンダ うさぎ コアラ」⁸⁾という歌は日本のもので、登場する動物は「中国、世界全域、オーストラリア」のものという歌もある。

幼児や小学校低学年の児童は音楽やリズムに対する関心の度合いが非常に高く、かつ敏感に反応する。したがって、見たり聞いたり、全身を用いて、楽しみながら言語を習得する方法は彼らの年齢期には最適な言語習得法に違いない。またその効果も大きいといえよう。なぜならば、英語の母語話者が言語を習得する際に、マザーグースの歌を歌いあるいは同時に身体を動かしながら、言葉を学ぶのはよく知られているからである。本教材のアプローチ法はこの英語の母語話者がマザーグースを用いる場合と類似しているといっていよいだろう。子どもたちは何度もその言語習得のための教材を反復練習することによって、その結果として実を結ぶのである。そのため、子どもたちが何度も反復練習をすることを可能にする飽きのこない愛着の持てる教材が必要不可欠となろう。この条件を満たす上で、本稿で扱ったオーストラリアで魅力的でありユニークな「コアラ」と「ウォンバット」の歌にあわせて手遊びをしながら、言語を習得するアプローチ法の意義は大きいのである。

最後に、深く理解しようと永年温めてきたにもかかわらず、そしてもうあきらめかけていたが、そこに聞き取りと採譜の協力が得られ、このようにまとめることができたことを大変感謝している。また、手遊びのイラストを学生に描いてもらいうれしく思っている。

注釈

- (1) Elaine Callister, 1986, Australian birds & animals, Action songs & rhymes
- (2) 一部標準的な言葉づかいになるように置き換えた部分がある。
- (3) 楽譜描きソフトは“Score Grapher Lite”, リムショット社を用いた。
- (4) Australian Broadcasting Corporation オーストラリア放送協会
- (5) Aussie Kids Child Care Centre at Mermaid, Gold Coast & others
- (6) Woodside Park Kindergarten (Woodside Park Road, London)
- (7) St. Catherine's Kindergarten (Vale Drive Barnet, London)
- (8) 作詞：高田ひろお 作曲：乾 裕樹 「パンダ うさぎ コアラ」

参考文献

- (1) 椎名仁編 2000『ここから始める小学校「英語活動」』 ぎょうせいPP23-26, PP167-170.
- (2) Ronald Strahan 1995 *A Photographic Guide to Mammals of Australia*, New Holland Ltd. (UK) P45, 47
- (3) Yvonne Perrin 1993 *The Australian Children's Ombibus*, Lansdowne Publishing Pty
- (4) Steve Parish 1993 *Celebrating Australia's KOALA*, Steve Parish Publishing Pty
- (5) Rod Scott 1983 *Unique Australian Animals*, Lansdowne Publishing Pty
- (6) 鷺津名都江 2004. 12 ようこそ「マザーグース」の世界へ 人間講座 NHK放送出版協会